

平成23年度学校関係者評価 全方位的な点検・評価 項目の分析と考察

※肯定的評価（Aとても思う＋B思う）と否定的評価（Cあまり思わない＋D思わない）及び、E分からないに分けてその割合を比較する。

I. 重点目標への取り組み

1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合75%以上を目指す。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す。
3. 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」 部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す。

重点目標への取り組み	分析結果	評価・課題及び改善方策	
・前年度の学校評価等を踏まえ、重点目標を具体的にかつ明確に設定している。	肯定的評価は90%である。	高いプラス結果である。 地域は91%が肯定的な評価であったが、保護者は昨年度より6%微増の66%の評価でまだ十分とはいえない。	1
・教職員は重点目標に沿った取り組みを進めている。。	肯定的評価は90%である。	課題は、保護者への広報活動をさらに推進することである。 ＜改善策＞	2
・保護者・地域の方々へ十分に重点目標を説明している。	肯定的評価は80%である。	保護者会、各種たより、ホームページ等多様な広報活動を工夫して行う。また、具体的な取り組みを全校体制で目に見える形で行う。	3

II. 地域とともに子どもを育てる教育

広報活動・情報提供		おおむね良好な結果であるが、地域人材や施設等の活用に関してと、学校協議会の活動に関しては、昨年度よりさらに5ポイント程度の微減となった。	
・保護者や地域の方に対して、情報を積極的に発信している。	肯定的評価は95%である。	情報提供に関しては、保護者・地域のアンケート結果から、保護者に対しては学年だより（プリント）で、地域に対してはホームページで発信していることに今年度もよい評価を得ている。	4
保護者・地域連携		家庭教育支援に関しては、昨年度よりも10ポイント弱の減少である。	5
・地域の人材や施設等の活用が進められている。	肯定的評価は62%である。	＜改善策＞	6
・保護者の相談等にしていねいに対応している。	肯定的評価が86%である。	情報の提供においては、今後も提供先に合った提供方法を工夫・改善を行っていく。	
学校協議会		学校協議会の活動については、避難所運営訓練の定期的な開催及び生徒・保護者の活動への参加等を行っていることを、ホームページやたより等でその広報活動を積極的に行っていく。	7
P T A活動		ふれあい挨拶デーの取り組みは、学び舎グループとして、小学校との連携のもと今後も継続実施していく。同時に地域とともに子どもたちを見守り、育てていく体制を深める。	8
家庭教育支援		地域の人材や施設をいかに活用していくか、学び舎の活動を推進していく中で効果的な活用方法を考えていく。	9
・家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	肯定的評価は71%である。		

III. 未来を担う子どもを育てる教育

教育課程			
【教育課程の編成・管理】			
・学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。	肯定的評価は90%である。	今年度も高いプラス結果である。	10
・教育課程の管理が適切に行われている。	肯定的評価は95%である。	各教科では学習指導要領の趣旨に基づいた年間授業計画を作成し、努力して授業時間の確保を行ってきた。	11
【授業時数等】		教育目標を達成するための基本方針や指導の重点について保護者・地域への周知が昨年度より8ポイント下がっている。	
・生徒の実態に即した生活時程になっている。	肯定的評価は91%である。	＜改善策＞	12
・各教科等の年間授業時数の確保に努めている。	肯定的評価は91%である。	来年度の世田谷教育要領の全学年試行実施に伴いその趣旨を生かした教育課程を編成していく。	13
教育目標等		行事の精選や準備に関わる時数の工夫を行う。	
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点は生徒の実態、保護者等の願いを活かしている。	肯定的評価は76%である。	授業時数の確保は良好な結果であるが、来年度の年間総授業時数増に対する検討を行っていくまた、週時数の増加や、土曜授業の月1回の実施に向け日課表の改善を検討する。	14
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点を共通理解し、保護者・地域への周知がなされている。	肯定的評価は67%である。	学校だより、保護者会、HP等での広報活動を工夫していく。	15

学習指導			
	【指導計画】		
	・指導目標・指導内容を明確にして指導計画を作成している。	肯定的評価は90%である。	16
	・年間指導計画等に基づいて計画的な指導がなされている。	肯定的評価は95%である。	17
	【指導の工夫】		
	・少人数教育の成果がみられている。	肯定的評価は57%である。	18
	・個に応じた指導が適切に行われている。	肯定的評価は71%である。	19
	・体験的・問題解決的な学習が進められている。	肯定的評価は48%である。	20
	・基礎的・基本的な内容の定着が図られている。	肯定的評価は91%である。	21
	【評価】		
	・指導と評価の一体化がなされている。	肯定的評価は95%である。	22
	・評価規準を明確にして評価している。	肯定的評価は100%である。	23
	【教材・教具、施設の活用】		
	・教材教具が整備され、積極的に活用されている。	肯定的評価は81%である。	24
	・学校図書館は有効に活用されている。	肯定的評価は91%である。	25
	・施設・設備は有効に活用されている。	肯定的評価は91%である。	26
	【教科・日本語】		
	・教科「日本語」のねらいについて、教職員の共通理解がなされている。	肯定的評価は19%である。	27
	・教科「日本語」の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は38%である。	28
生活指導			
	・生活指導について組織的な取り組みがなされている。	肯定的評価は76%である。	29
	・学校のきまりや基本的な生活のルールが教職員に共通理解されている。	肯定的評価は81%である。	30
	・生徒の規範意識や社会の一員としての自覚を高めている。	肯定的評価は81%である。	31
	・保護者等からの相談に誠実に対応している。	肯定的評価は100%である。	32
	・スクールカウンセラーの活用や相談室等との連携が図られている。	肯定的評価は86%である。	33
道徳			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は58%である。	34
	・各教科等との関連を図った指導がなされている。	肯定的評価は43%である。	35
	・道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	肯定的評価は29%である。	36
特別活動			
	・年間計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は91%である。	37
	・年間計画に基づいた自主的な運営がなされている。	肯定的評価は81%である。	38
	・生徒の自主的・実践的な態度が育成されている。	肯定的評価は72%である。	39
総合的な学習の時間			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がされている。	肯定的評価は76%である。	40
	・体験等を通して生徒の問題解決能力が育っている。	肯定的評価は81%である。	41

おおむね良好な結果であるが、少人数教育の成果、体験的・問題解決的学習、教科日本語の結果が今年度も低い。通知表の評価に対する保護者の肯定的評価は昨年度より10ポイント上昇した。

<改善策>
来年度の世田谷教育要領の実施に伴い、言語活動を重視した指導内容の作成と同時に体験的・問題解決的な学習を取り入れ、意図の実施できるように工夫する。教科日本語に関しては、指導法の研究を組織的に行い、研修等計画的に実施し、共通理解・充実を学年体制・全校体制で行う。また、オリジナル資料の収集等推進し日本語の授業の充実を図っていく。

評価評定については今後も保護者会や学年だより等でより詳しく説明していく。

おおむね良好な結果である。

生徒アンケートの各項目とも肯定的評価が昨年度より10ポイント強の上昇である。保護者アンケートは、昨年度とほぼ同様の結果である。

<改善策>
今後も年度当初に、生活指導マニュアルに基づいて、きまりや対応の仕方を確認し、それ以外の不明な点があったときは、定期的に討議の機会を設けて協議する。これらことにより、情報の共有化・共通理解を図り、指導体制を強化する。

問題行動を随時生徒にも知らせ、自分自身について考えさせ、気づかせる指導を今後も推進する。

道徳や学級活動を含め全ての領域で、規範意識の向上を図る。

道徳の評価では、各教科との関連を図った指導、道徳的心情・判断力・実践力が育っているかの項目は肯定的評価は昨年度よりも微増であるが50%を下回る低い評価である。

<改善策>
道徳の年間指導計画を本校の生徒の実態に即したものとなるように計画の見直しを図っていく。

道徳の授業だけではなく、各教科において意図的に授業で関連させた指導を取り入れたたり、学校行事等を通して道徳的心情を高める。

委員会活動においては、より自主的に考え、企画立案・実践できるよう指導する。

生徒の自主的・実践的な態度をさらに育成するため、実行委員会・学級会・班会議などを通して、自主的に考える時間を多く設定し、今後も自主的・実践的な態度を育成する。

校外学習等の体験学習を通して、問題解決能力や意思決定能力、情報活用能力の向上を培わせる。

学校行事			
	・無理なく計画的に学校行事が実施されている。	肯定的評価は 8 6 % である。	42
	・学校行事の工夫・改善が進められている。	肯定的評価は 7 1 % である。	43
健康・体力			
	・体力の向上に取り組んでいる。	肯定的評価は 5 7 % である。	44
	・食育の推進に計画的に取り組んでいる。	肯定的評価は 7 6 % である。	45
	・健康教育について保護者の理解と協力が得られている。	肯定的評価は 5 2 % である。	46
特色ある教育			
	・生徒や地域、学校の実態に応じた取り組みとなっている。	肯定的評価は 8 1 % である。	47
	・学校間連携（幼・小・中・高）を積極的に行っている。	肯定的評価は 9 0 % である。	48
	・学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている。	肯定的評価は 7 1 % である。	49
	・学校エコライフ活動の取り組みを図っている。	肯定的評価は 6 2 % である。	50
キャリア教育・進路指導			
	・職場体験が効果的に実施されている。	肯定的評価は 8 6 % である。	51
	・キャリア教育・進路指導について組織的な取り組みがされている。	肯定的評価は 6 2 % である。	52
	・生徒、保護者に十分に情報を提供している。	肯定的評価は 7 2 % である。	53
特別支援教育			
	・校内体制が整備され校内委員会は機能している。	肯定的評価は 6 2 % である。	54
	・教育相談室や関係機関との連携が行われている。	肯定的評価は 6 7 % である。	55
部活動			
	・部活動は活発に行われている。	肯定的評価は 1 0 0 % である。	56
	・部活動の実施体制は適切である。	肯定的評価は 8 1 % である。	57

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくり

学校運営・学校経営			
	・校長の経営方針は明確に示されている。	肯定的評価は 8 6 % である。	58
	・校長のリーダーシップは発揮されている。	肯定的評価は 9 0 % である。	59
	・教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている。	肯定的評価は 9 0 % である。	60
	・校務分掌は適切に分担され、各分掌の取組内容等が明確で適切に機能している。	肯定的評価は 7 6 % である。	61
	・教職員の情報共有が適切になされている。	肯定的評価は 7 1 % である。	62
	・校務の情報化が進められている。	肯定的評価は 6 5 % である。	63
学校評価			
	・学校評価は適切に実施されている。	肯定的評価は 7 6 % である。	64
教職員			
	・問題意識や悩みを気軽に話し合える職場となっている。	肯定的評価は 6 7 % である。	65
	・教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	肯定的評価は 9 5 % である。	66
研究・研修			
	・校内研究会・研修会が充実し、日々の実践に役立っている。	肯定的評価は 4 8 % である。	67

保健管理			
	・生徒の実態を踏まえた計画的・組織的な健康指導が行われている。	肯定的評価は90%である。	高いプラス評価である。 ＜改善策＞ 学校全体の生徒の健康状態の把握のため、今後も学校保健委員会で学校医との連携を深めていく。
	・日常の健康観察や健康診断等が適切に行われている。	肯定的評価は100%である。	
安全管理			
	・事故・災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	肯定的評価は86%である。	良好な結果である。保護者のアンケートでは肯定的評価が昨年度よりおおむね10ポイント程度上昇している。災害時の対応と、本校の施設の安全性の確保について周知していくことが今後の課題である。 ＜改善策＞ 避難訓練や安全指導の内容や活動の様子を学年だよりやHP等で今後も紹介する。 地域と連携した訓練の実施を今後も工夫・継続し、保護者・地域への広報活動をさらに充実させる。 災害時の対応について、保護者や地域に定期的にたより等で連絡していく。また、施設の安全性についても確保している現状を広報していく。
	・避難訓練・防災訓練等が適切に行われている。	肯定的評価は100%である	
出納・経理			
	・予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	肯定的評価は88%である。	本項目は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。
	・私費会計の徴収・会計処理が適正に行われている。	肯定的評価は91%である。	
文書・情報管理			
	・個人情報の管理システムが機能し適切に管理されている。	肯定的評価は100%である。	個人情報の管理システムの項目は100%となったが、今後も、教職員の意識の向上を徹底的に行う。 パソコンによる校務は、事務作業の効率化、負担軽減ともなるので、さらに推進していく。
	・パソコンによる校務は適切に行われている。	肯定的評価は95%である。	

V. 教育環境の整備

施設・設備			
	・学校の教育環境は整備されている。	肯定的評価は75%である。	良好な結果である。 ＜改善策＞ 引き続き定期的な点検管理と迅速な対応を行う。
	・日常的な施設、設備の点検や管理は適切に行われている。	肯定的評価は100%である。	

VI. 数値目標の達成状況

数値目標	分析と課題
1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒は「授業の内容はよく理解できる」という項目に対して、78%（A20%, B57%）と評価している。昨年度とより7ポイント強の上昇であり、目標の75%を上回った。昨年度は2年生の肯定的評価が低く課題であったが、2年生の評価はA:17%、B:60%となり向上がみられる、また各学年で肯定的評価が75%を超えた。 保護者への「本校では、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の評価においては、昨年度64%、今年度63%の充足度であり、ほぼ同じ評価結果であるが満足できる結果とはいえない。 ＜改善策＞引き続き校内研修・授業研究等を通して、授業改善及び授業規律の確立に努める。生徒の授業内容が理解できるという実感が生徒から保護者へ伝わるように今後も継続して努力していく。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す。	「本校は地域の活動や行事によく協力している。」の保護者の肯定的評価は78%で、昨年度の70%からの8ポイント増である。また、「学校は地域の活動や行事によく協力している」の地域の方の肯定的評価は84%と昨年度より13ポイント蔵の高評価をいただき、目標を上回る結果となった。 ＜改善策＞ 今後も地域行事の予定を生徒・保護者へ周知するため、地域行事予定表を生徒全員に配布していく。 また、地域行事等のボランティア活動では、参加することによる・満足感や充足感・達成感を生徒一人一人が得られるようさらに検討していく。
3. 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」 部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒の「学校全体で、部活動は充実している」の項目では76%の肯定的評価となった。昨年の73%からの微増ではあるが、目標の75%を上回った。 保護者の「本校は、学校全体で部活動を活発にしようと努力している」の項目では67%の肯定的評価で、昨年度の68%とほぼ同じであった。 「部活動の回数や時間はちょうどいい」の項目は、保護者64%、生徒68%と、昨年よりわずかであるが上昇した。 「入りたい部活動がある」の項目では、保護者61%と昨年度より3ポイントの上昇、生徒68%の肯定的評価で昨年度より3ポイント減となった。 ＜改善策＞ 部活動の練習内容を今後もさらに検討し、限られた時間のなかで密度の濃い練習計画を作成し、部活動の充実感をさらに向上させていく。 施設・設備の安全性の確保と充実をさらに促進する。